

様式 - A

用語	雨の強さ																																																						
よみ	あめのつよさ																																																						
解説	<p>雨の強さに応じた人や建物などへの影響の仕方を示した表。数値だけでなく雨の強さを具体的にイメージできるように工夫したもの。</p> <p style="text-align: right;">(平成12年8月作成、平成14年1月一部改正)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>1時間雨量 (mm)</th> <th>予報用語</th> <th>人の受けるイメージ</th> <th>人への影響</th> <th>屋内 (木造住宅を想定)</th> <th>屋外の様子</th> <th>車に乗っていて</th> <th>災害発生状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10以上 20未満</td> <td>やや強い雨</td> <td>ザーザーと降る</td> <td>地面からの跳ね返りで足元がぬれる</td> <td>雨の音で話し声が良く聞き取れない</td> <td>地面一面に水たまりができる</td> <td></td> <td>この程度の雨でも長く続く時は注意が必要</td> </tr> <tr> <td>20以上 30未満</td> <td>強い雨</td> <td>どしゃ降り</td> <td>傘をさしてもぬれる</td> <td>寝ている人の半数くらいが雨に気がつく</td> <td></td> <td>ワイパーを速くしても見づらい</td> <td>側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる</td> </tr> <tr> <td>30以上 50未満</td> <td>激しい雨</td> <td>バケツをひっくり返したように降る</td> <td></td> <td></td> <td>道路が川のようになる</td> <td>高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)</td> <td>山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要都市では下水管から雨水があふれる</td> </tr> <tr> <td>50以上 80未満</td> <td>非常に激しい雨</td> <td>滝のように降る(ゴォーと降り続く)</td> <td>傘は全く役に立たなくなる</td> <td></td> <td>水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる</td> <td>車の運転は危険</td> <td>都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合があるマンホールから水が噴出する土石流が起こりやすい多くの災害が発生する</td> </tr> <tr> <td>80以上</td> <td>猛烈な雨</td> <td>息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要</td> </tr> </tbody> </table>							1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況	10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		ワイパーを速くしても見づらい	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	30以上 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る			道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要都市では下水管から雨水があふれる	50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴォーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合があるマンホールから水が噴出する土石流が起こりやすい多くの災害が発生する	80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる					雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要
1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況																																																
10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要																																																
20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		ワイパーを速くしても見づらい	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる																																																
30以上 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る			道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要都市では下水管から雨水があふれる																																																
50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴォーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合があるマンホールから水が噴出する土石流が起こりやすい多くの災害が発生する																																																
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる					雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要																																																
用例 (主に活用される場面)	<p>南部山沿いと北部山沿いでは、31日夜遅くにかけて激しい雨が降り、総雨量が600ミリを超える所があるでしょう。</p> <p>今夜遅くから非常に激しい雨が降るおそれがあります。低地の浸水等に警戒が必要です。</p>																																																						
関連用語・類似用語																																																							
注意すべきポイント (防災上の注意すべき点)	<ul style="list-style-type: none"> ・「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想される時は、大雨注意報や大雨警報を発表して注意や警戒を呼びかける。ただし、注意報や警報の基準は地域によって異なる。 ・猛烈な雨を観測した場合、「記録的短時間大雨情報」を発表することがある。その基準は地域によって異なる。 ・この表は、この強さの雨が1時間降り続いたと仮定した場合の目安を示している。この表を使用する際は、以下に注意する。 表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがある。 この表ではある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述しているので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もある。 																																																						